

真庭市中津井における 小学校校舎利活用の検討方法 ～風は西から～



岡山県真庭市 嶋田 有一郎

1. はじめに

多くの過疎地域と同じように、人口減少が進む我がまち中津井。そこに巻き起こる小学校、幼稚園の統廃合の話。地域の人は皆、この統廃合に対して何かしらの思いを抱えているのではないだろうか。統廃合の話をつきかけに、地域の将来を一緒に考えることはできないだろうか。そこで、地域の人たちの思いを確認しようと考え、中津井地域へのアンケート・ヒアリング調査を試みることにした。本レポートは、アンケート・ヒアリングと先進地事例を基に閉校後の中津井小学校の利活用を考える場のあり方を提案するものである。

2. 中津井小学校区の概要

旧上房郡に属していた北房町（面積 71.18k m²）は、平成 17 年 3 月 31 日に旧真庭郡の内新庄村を除く 8 町村と合併し真庭市になった。旧北房町内には 9 つの大字が存在し、中津井、皆部、上水田、水田の 4 つの小学校区がある。合併当初は 5 校だったが、阿口小学校は平成 27 年 7 月 1 日に廃校となった。

小学校区毎の大字と人口（平成 27 年 9 月 1 日現在住民基本台帳）は中津井小学校区（上中津井 555、下中津井 637）1,192 人、皆部小学校区（上皆部 235、下皆部 886、阿口 218）1,339 人、上水田小学校区（上水田 1,562）1,562 人、水田小学校区（五名 289、宮地 796、山田 317）1,402 人で、合計（北房中学校区）5,495 人。また真庭市全体の人口は 48,017 人である。

中津井小学校区（面積 17.54k m²）は、昭和 28 年 10 月 1 日の北房町合併以前は中津井村という村として存在していた。

現在、中津井小学校区には 15 の集落（自治会）が存在し、自治会に加入しているのはおよそ 350 戸である。

中津井地区の小学校は、明治 6 年習之小学校、塩川小学校として創立。同 12 年の合併により習之小学校、同 33 年中津井尋常小学校、昭和 16 年中津井国民学校、同 22 年中津井村立中津井小学校、同 28 年北房町立中津井小学校と変



図 1 旧北房町位置図



図 2 北房地区の地図

遷。平成 17 年の合併で、真庭市立中津井小学校となった。現在の生徒数は 42 名である。

さらに、平成 27 年 7 月 21 日に行われた「北房における新しい子育て教育環境づくり基本構想（案）説明会」によると中津井地域の 0 歳から 5 歳までの人口の状況は各学年 10 人未満で、合計しても 31 人である（表 1）。



写真 1 中津井小学校 校舎

表 1 中津井小学校区 0 歳から 5 歳までの人口

| 年齢 (出生年度) | 5 才 (H21) | 4 才 (H22) | 3 才 (H23) | 2 才 (H24) | 1 才 (H25) | 0 才 (H26) |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 人口 | 8 人 | 5 人 | 4 人 | 5 人 | 7 人 | 2 人 |
| 入学年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 |

教育委員会の説明会により筆者作成

3. 統廃合の計画

(1) 真庭市立小・中学校の適正配置

地域住民、PTA、学校・園、有識者、行政の代表等 29 名で構成された真庭市学校整備委員会は、真庭市教育委員会から学校の適正配置について諮問を受け、平成 22 年 1 月に「真庭市立小・中学校の適正配置について[答申]」を作成した。その中で、「子ども達の教育という観点に重きを置けば、当然、ある程度の学校規模が必要であるとの結論に至らざるを得ないところであり、結果として、将来的には、学校の適正配置は避けられない」とした。

その上で、「ただし、学校はそれぞれの歴史と共に地域社会との深い結びつきを持っており、地域のシンボルであると同時に、住民の心よりどころとしての役割も果たし、地域が支えてきたことについても、十分に配慮した上で、地域関係者、保護者の意見に耳を傾け、学校・地域・行政が連携し一体となって進められたい」と述べ、さらに適正配置に伴う学校施設や跡地の活用については、「学校の適正配置が進んでも、地域の中で子ども達の活動する場や機会が失われることのないよう、学区の住民や関係機関と十分な協議を行い、地域振興の拠点施設として有効活用が図られるよう検討されたい」としている。

この答申を受け、真庭市教育委員会は平成 23 年 1 月「真庭市立小・中学校適正配置実施計画」を策定（平成 25 年 10 月改定）した。その中で、複式学級のある小学校を「小規模校」、児童・生徒が 1 人以下の学年がある学校を「極小規模校」とし、平成 29 年度までに「小規模校」「極小規模校」について、隣接する小学校と統合する適正配置計画を示している。この時点ですでに対象の学校は固有名詞で計画に名前が挙がっているが、中津井小学校の名前はまだ出ていない。ただし、「平成 30 年度以降は、児童生徒数の推移や、立地条件を総合的に判断し、再編整備を検討する」とあり、将来的に北房地域の小学校を一校にする計画も明示されている。

また、校舎等の跡地利用については「①休校の場合、校舎等の維持管理は教育委員会が行う。あくまで学校施設であり、目的外使用に関して制限を伴うため、地域住民の利用については、教育委員会と協議の上、必要事項を取り決める。②廃校の場合、議会等の承認

を得て、普通財産とし、地域組織や団体（営利団体を除く）への払い下げも検討し、廃校校舎の有効活用を図る。ただし、校舎の老朽化が著しい場合は、取り壊しも含めて検討していく。学校は地域の拠点として地域活動や文化継承の一翼を担ってきた。また地域防災の拠点でもあり、跡地については十分配慮していく必要がある」と真庭市教育委員会は述べている。

（2）北房における新しい子育て教育環境づくり基本構想

平成 26 年度、真庭市教育委員会は北房地域学校・園整備計画に着手、小学校区ごとの住民説明や、3 回のワークショップを行い、平成 27 年 6 月「北房における新しい子育て教育環境づくり基本構想」を作成。表紙には真庭市キャラクター「まにぞう」が印刷されており、まにぞうの吹き出しに「風は西から」と書き込まれている（図 3）。これは新しい教育環境を真庭市の南西部に位置している北房地域から全国へ発信したいという意欲の表れだ。

同年 7 月 21 日、市と教育委員会は北房文化センターにて説明会を開催しており、北房統合小学校（仮）は旧至道高校跡地に新設し、平成 30 年 4 月に開校することが適切であると発表した。この基本構想では、「地域による学校支援文化」を継承発展させ、北房地域の子育て教育分野での魅力を高めることがうたわれている。

北房統合小学校（仮）が新設されるということは、現在北房地域にある中津井小学校、皆部小学校、上水田小学校、水田小学校の四校が閉校になることを意味する。この基本構想の中には使われなくなる小学校舎等の跡地利用についての記述はないが、基本構想でうたわれている「地域による学校支援文化」が成功するためには、当然、北房地域全体の協力が必要不可欠である。となれば、各地域に抜け殻のように残る空き校舎の問題はないがしろにできない。「北房における新しい子育て教育環境づくり基本構想」と表裏一体である小学校校舎等の跡地利用への取り組みの強化は「風は西から」の追い風になるのではないだろうか。

（3）真庭市長の議会答弁

平成 26 年 12 月議会で太田真庭市長は「施設は市と市民の財産。あいまいに残すのではなく、維持や転用、処分など早急に決定し、地域活性化のために使いたい。地元団体が活用するなら積極的に支援する」と答弁。また、平成 27 年 9 月議会では、原真庭市議会議員から「統廃合される各学校・園の利活用問題に関して、各地区の市民の方は勿論であるが、市が中心となって利活用に関する施策や方法論を学校統廃合の議論とあわせて早急に実施していくべきである」と考える。地域住民に利活用を押し付ける事は無いようにして戴きたい」という内容の一般質問を受け、市長は「この件に関しては本当に悩んでいる。使用が制限されないよう『廃校』にしたい。地域の意向を尊重し、意欲をもった住民がいれば地元で活用してほしいが、地元で維持管理するのは難しいと思っている。今後副市長をトッ



図 3 基本構想の表紙

出典：真庭市・真庭市教育委員会『北房における新しい子育て教育環境づくり基本構想』表紙

プに閉校活用プロジェクトを作る」という旨の答弁をしている。

これらの経過から推測すると将来的に中津井小学校の校舎は教育施設ではなくなるものと思われる。しかしながら、その跡地の維持管理や利活用についてはまだ議論の余地がある。

3. 地元の人々の思い

(1) 真庭市学校整備推進委員会のアンケートから

真庭市学校整備推進委員会は平成 21 年 4 月 1 日現在で満 20 歳以上の真庭市民を対象に学区別・年齢階層別に 2,000 人を無作為に抽出し、アンケート調査を実施し、941 人から回答を得ている。

このアンケートの「校舎等が空き施設になった場合、どのように活用することが望ましいとお考えですか。そう思われる理由を"いくつでも"お答え下さい」という問いに対し「地域の福祉サービスに活用する」、「地域の生涯学習に活用する」という 2 つの回答数が多く、「NPO や民間団体に貸与・売却する」、「解体して、跡地を有効利用する」に回答しているものは上記 2 回答の半数以下である。このアンケートでは、校舎そのものを地域住民が何らかの形で関われる形態で活用することを望んでいる方が多いことが読み取れる。

因みに、回答者 941 名のうち、20 人が中津井小学校区の住民である。

(2) 中津井小学校区に住まう人々へのアンケート・ヒアリングから

9 月下旬から 12 月下旬まで、中津井小学校区に居住する 10 代から 80 代の方を対象に訪問面接式（一部例外あり）アンケートを行った。住民の約 5% に当たる 65 名の方に協力いただいた。

「中津井のシンボルといえば何でしょう」という質問に対し多かった回答は 15 名が選択した「大谷 1 号墳」であるが、2 番目に中津井小学校が挙げられている（図 4）。回答者の方々の居住年数から推測すると、本アンケートに回答した住民のうち、現在の校舎に通ったことがある人物は 20% ほどである。にもかかわらず多くの支持を得たのは何故だろうか。考えられる要因として、中津井地域で一番巨大な建造物であること、現在の校舎に通ったことはなくとも旧校舎に通った人、毎年小学校の運動会と併せて行われる地区運動会に参加した人、また保護者として現校舎に関わってきた人の存在があることを挙げるができる。

また、同じ質問の「その他」の自由記述に書き込まれたかつて小学校にあった巨木「せんだんの木」や「旧校舎」など「中津井小学校」を連想できる回答を数に含めると、「中津井小学校」の回答数は「大谷 1 号墳」を抜き、最も多い回答となる。

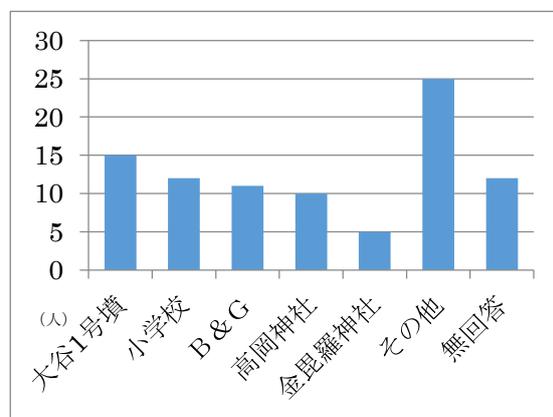


図 4 中津井のシンボルとは

「平成 30 年 3 月で中津井小学校が閉校になる計画をどう思いますか」という質問に対しては、図 5 に示すとおり「仕方ない」という思いの方が 45 名と圧倒的に多い。どこかに「住民が決めたことじゃない」という思いは少なからずあるのではないだろうか。次いで回答数が多いのは「寂しい」「もったいない」であり、「何とも思わない」という回答は 0 であった。

当然かもしれないが、廃校を待ち望んでいる人はいないのである。ただ、「良いことだ」とする回答も若干あり、これは統廃合に伴い子どもたちの教育環境が整うことへの期待と思われる。

ここでいよいよ中津井小学校の閉校後の管理・活用についての質問である。「閉校後の管理・活用についてあなたの思いに近いものに一つ回答してください。」という質問項目を設けたところ、図 6 に示すとおり「その他」の回答が最も多くなるという結果になってしまった。

そこで、「その他」の自由記述の内容を「誰が管理すれば良いか」ということに着目して 5 つに分類してみると、まず特筆すべきは『是非地元で…』と思うが私が率先してはできない」「地元でできたら良いけどお金が…」など、「できれば地元」に分類できそうな回答が 17% あったことだ。これらの意見は「理想は地元だが現実には厳しいものがある」という慎重な姿勢のものであるため敢えて「できれば地元」に分類していない。次に、「めぐ（壊す）のはもったいない」「誰かが使わないと駄目になる」「名案が無いなら性急に事を起こさない」など誰が管理しどのように活用していけばよいか分からないというような回答が 47% であった(図 7)。

また、「市役所で管理すべき」「行政にまかせる」「行政でもり(世話)してほしい」など市役所主体の運営を望む声も 21% あり、少なからず見受けられた。市の施設ということで平成 27 年度からグラウンドの使用料を徴収するようになったことも「地元の小学校」というよ

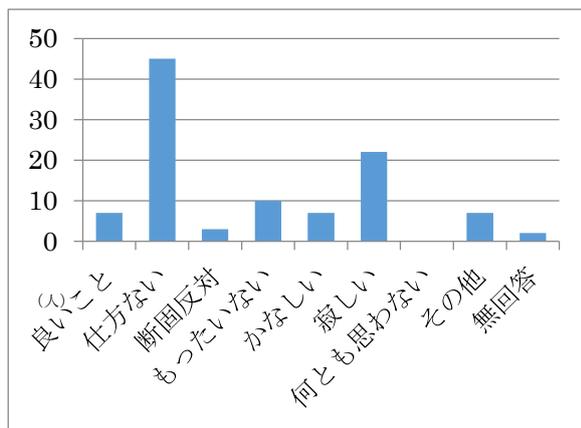


図 5 閉校の計画について

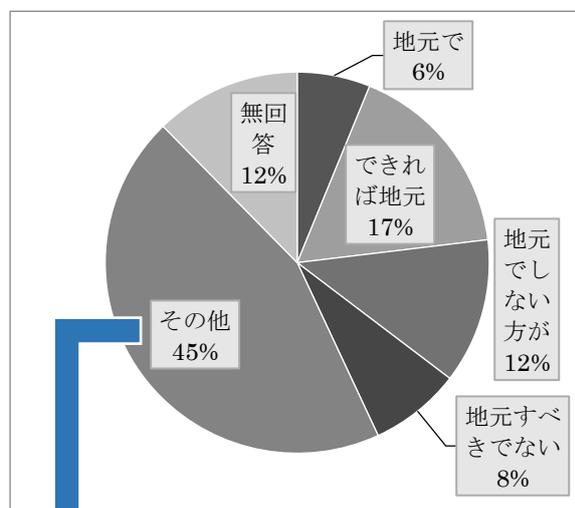


図 6 管理・活用について

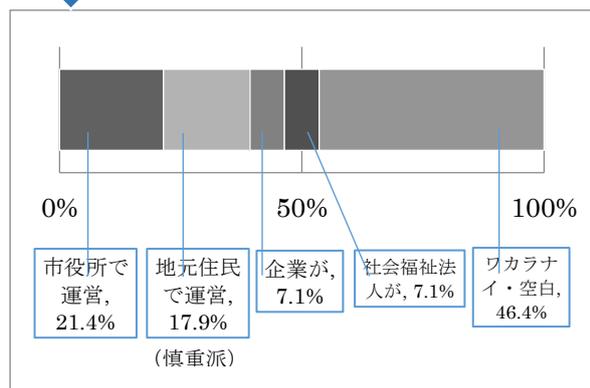


図 7 その他 45%の内訳

りは「市の施設」という色を濃くした原因かもしれない。アンケート調査中、中には自らグラウンドの草取りなどを無償で買って出ていた住民もおり、このグラウンドの有料化に複雑な思いをしている住民も少なくないことが分かった。しかし、前述のとおり市役所としても、活用方法の具体案がある訳ではない。

同じ質問の「是非地元で管理・活用すべき」と「できれば地元住民でした方がよい」の2つの回答を合わせると地元住民が管理・運営の主体になるという考えの方は23%ほどで、その回答を選んだ理由を尋ねると「思い出のある小学校」「地元の小学校だから」「母校だから」など地元住民と歴史を積み重ねてきた小学校像が浮かび上がる。

反対に地元住民以外が管理・運営の主体になった方がよいと考える「地元住民でない方がよい」「地元住民が管理・活用すべきではない」という2つの回答を合わせると20%ほどになり、この選択肢を選んだ理由としては、「大きい建物なので大変」「気持ちとしては住民で使いたいけど、もり（世話）出来ない」「高齢者が増えていく現状で出来ない」など、規模や構造に無理があるとしたもののが54%ほど、人手不足を指摘するものが約18%であった。

さらに課題を明らかにするために、この質問内容を年代別に集計を行った（表2）。

表2 管理・活用について（年代別）

単位：人（%）

| | 是非地元で | できれば地元 | しない方が | すべきでない | その他 | 回答なし |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 10代 | 2(50.0%) | 1(25.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 1(25.0%) |
| 20代 | 1(16.7%) | 2(33.3%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 3(50.0%) | 0(0.0%) |
| 30代 | 0(0.0%) | 1(20.0%) | 2(40.0%) | 0(0.0%) | 2(40.0%) | 0(0.0%) |
| 40代 | 1(8.3%) | 2(16.7%) | 0(0.0%) | 1(8.3%) | 8(66.7%) | 0(0.0%) |
| 50代 | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 2(28.6%) | 1(14.3%) | 4(57.1%) | 0(0.0%) |
| 60代 | 0(0.0%) | 2(15.4%) | 3(23.1%) | 3(23.1%) | 4(30.8%) | 1(7.7%) |
| 70代 | 1(10.0%) | 0(0.0%) | 1(10.0%) | 0(0.0%) | 4(40.0%) | 4(40.0%) |
| 80代 | 0(0.0%) | 2(25.0%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 4(50.0%) | 2(25.0%) |

アンケートをもとに筆者作成

するとどうだ。「是非地元住民で管理・活用すべき」と答えた割合が多いのは地域において絶対数の少ない10代、20代の人達で、「地元で管理・活用すべきでない」と答えた割合が多いのは絶対数の多い40代から60代の人々である。しかし、40代から60代の人々を責めてはいけない。人にはそれぞれ事情というものがある。40代から60代といえば職場でも地元でも何かと責任の重い世代ではないだろうか。今以上の責務を担うのは誰だっにしんどい。では、一体、誰がどのように活用すべきか。

さて、アンケートの最後に「閉校後の校舎・跡地が生まれ変わるとしたらどんな利用方法が良いと思いますか」という質問に自由記述で回答を求めたところ、「買い物ができる場所」「工場」「お年寄りから子どもまで集まる事ができる場所」「管理が難しいなら更地に」「更地にして売る」など利活用から校舎の解体も視野に入れた様々な回答をいただいた。そこで、これらの回答を大きく「活用派」「活用しない派」「迷う派」の3つに分類すると、

「活用派」が最も多く74%にも上る(図8)。

さらに65名全体の回答を廃校の利活用についての意思に焦点を置き、「主体的に活用したい意思」「手伝う意思」「利用してみたい意思」「利用するかもしれない意思」「よくわからないが活用してほしい意思」「関わりたくない意思」「不明」「回答なし」の8つの括りに分類してみたところ、最も多いのは「よくわからないが活用してほしい意思」の26%であった。次いで「利用してみたい意思」21%、「利用するかもしれない意思」18%と続く。「主体的に活動したい意思」は2%であり最も少ない(図9)。

「活用してほしい」といいつつも、やはり「自分には無理だから誰かにやってほしい」という気持ちがアンケートからにじみ出ている。

因みに、使用用途の提案のうち最も多いのは「花岡荘(特別養護老人ホーム)に入れない人のための施設」「介護・福祉系のもの」など高齢者施設であり回答数の16%を占めている。次いで多いのは「皆が集まれる場所」「お年寄りから子どもまでが集まる事ができる場所」といった住民のコミュニティの場で、6%である。

また、アンケートとは別に中津井地域の30代から70代の地域自主組織「中津井せんだんの会」や消防団の役員などの地域活動をされている方、また、かつて経験したことがある方、元北房町青年団員の方など10名を対象に統廃合や跡地利用などについての思いをヒアリングしたところ、「衛生面、安全面から残す意味を感じない」「廃墟になるなら壊した方がよい」など解体も視野に入れた意見、また「建物が大きく維持管理の話になると押し付け合いになる」などアンケートと同様に建物の規模的に維持管理が難しいという意見、「他にも地元で指定管理を受けている物件もある」「始めることよりも続けることの方が難しい」という地元の厳しい状況を表す意見などが多かった。

これらアンケート・ヒアリングの結果からは、残念ながら今の中津井小学校区の住民たちに一致団結して廃校利活用に乗り出していける環境があるとは言えない。

しかし、ごく少数ではあるがヒアリングの中で「どこにも無いものが中津井にできればよい」「一番の理想は人口が増えたときに再び小学校として利用されること」などの今後の中津井に元気を与えてくれるような意見を口にする人も存在している。

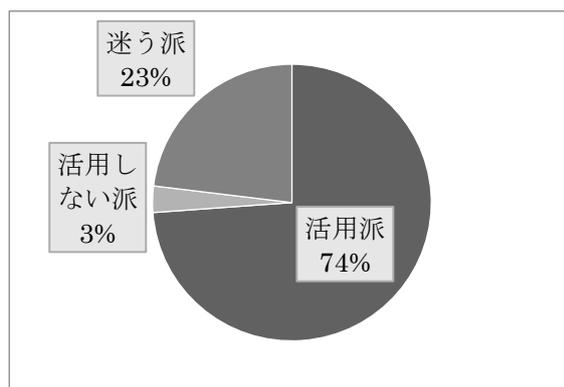


図8 校舎の跡地利用

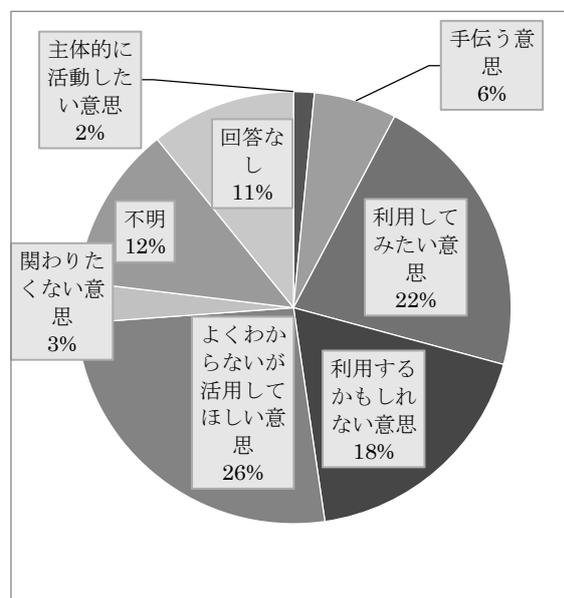


図9 校舎利活用への意思

我々は当然、一人では大きなことはできない。面倒で負担になることも多く予想される。しかし、そんな困難に立ち向かう、いわば過疎と戦う人々を島根県で見てきた。

5. 先進地の取り組み

先のアンケート結果で問題点ばかりが浮き彫りになってしまったが、一方で地元には色々な意見があるということが分かった。中にはこのまま埋もれてしまうにはあまりにももったいない意見、本当に実現できれば面白い意見だとワクワクさせられるような意見もある。さらに、この「廃校の利活用」というテーマは中津井小学校区の人々にとって格好の「共通の話題」であるといえる。

さて、筆者は平成 27 年 10 月に島根県雲南市波多地区を訪れ、驚くべきものを見てきた。

そこでは、小学校跡地を「交流センター」と呼ばれる地域自主組織「波多コミュニティ協議会（以下「協議会」という）」の拠点施設として市から指定管理を受け協議会が運営しているのだ。さらには、空き教室に「波多マーケット」という小さなスーパーがあり、これも協議会によって営まれていた。

しかし、これらは一朝一夕に出来る取り組みではなく、長きにわたる協議会による日々の活動の賜物といえる。協議会は交通安全教室やサロンなどの福祉活動、とんどまつり、波多温泉祭りなどの恒例行事の運営はもとより、「波多彩りプロジェクト」の活動など、なみなみならぬ努力をしている。協議会が手上げ方式により募集した「波多彩りプロジェクト」のプロジェクトメンバーが 3 人組になり、各集落へのヒアリング（全住民を対象）を 2 年という歳月をかけて 3 回実施し、「地域づくりビジョン」を作成している。ヒアリングの第 1 回目は「苦情でも何でも聴く」という姿勢で臨まれたそうである。

このように協議会は住民と顔と顔を合わせたコミュニケーションの場を創出することにより今日まで活動を続け、今までは交流センターに来られなかった人も「波多マーケット」があるために買い物に訪れるようになり協議会が地域の拠り所となっている。

努力しているのは地域自主組織（ここでは波多コミュニティ協議会）だけではない。雲南市役所は、人口減少などが地域社会崩壊につながるという危機感から行政が推進して地域自主組織の設立を呼び掛けた。このことにより、おおよそ小学校区という顔の見える範囲で「自らの地域は自ら治める」自治組織が出来上がった。

さらに、雲南市は各支所単位に 6 名の地域づくり担当職員を配置。各地域自主組織の支援を行っている。また、近年「地域円卓会議」を導入し、市役所と地域自主組織が顔を合わせ各部局横断的に協議できる場を設けている。

また、地域自主組織の活動を助けるため、住民の自治を担うことのできる法人格「スーパーコミュニティ法人」創設を検討しており、必要に応じて国への政策提言を行っている。また、資金面においても地域自主組織への指定管理料などの予算を確保したりするなど、地域自主組織と市役所がよきパートナーとなり、その地域に住んでいる住民が主体となつてのまちづくりができるよう取り組んでいる。

雲南市職員の話によると、市役所が取り組みを始めた当初、地元住民は、市役所がすべき「自治」を「地元へ投げられた」「やらされている」と感じていたかもしれないが、気持

ちも徐々に変わっていき、最近では「役所は何もやらせてくれない」「もっと権限を委譲してほしい」という声があがるようになったという。

6. 「廃校プロジェクト」への提案

前段で島根県雲南市や波多コミュニティ協議会の取り組みを紹介したが、雲南市波多地区と真庭市中津井地区ではその土壌や環境が大きく異なる。参考になる部分は大いにあるが、そっくりそのまま真似る訳にはいかない。

参考にしたいと考えるのは、地域を形成しているのは「人」であることを強く意識している部分だ。地元住民も、行政職員も、顔と顔を合わせコミュニケーションを取り続けているという点と、波多地区の様子を一番知っているであろう波多地区の住民たち自身が自分たちの手によって自分たちの「地域づくりビジョン」を作成しているという点である。人と人が対話をし、自分たちの地域のことを自分たちで決めるという単純で基本的なことができている。

地元住民は本当に様々な思いを抱えている。太田昇真庭市長が述べた「廃校プロジェクト」がいかなる組織になるか見当もつかないが、是非とも多くの地元住民と接触し、また地元住民同士も顔を合わせることができ場を多く創出するべきだと考える。そこで「廃校プロジェクト」に以下の2点を提案する。

まず1点目は、各集落へのヒアリングである。今回の調査は中津井地区の人口5%の方への聞き取りに過ぎない。今後、本当に廃校の跡地利用を良きものにしていくためには、波多地区の「波多彩りプロジェクト」のように全集落に出向き地元の意見と真摯に向き合う覚悟が必要である。この各集落に出向くという行為により、地元住民の意見を聞き出すだけでなく、「廃校プロジェクト」が真剣に跡地について考えている姿勢を示すこともできると考える。

2点目は、校舎の開放である。アンケートやヒアリングの意見の中には、少数ではあるが自らが主体となって校舎で何かやってみようという意見もあった。そういった人が校舎へ入り考えをまとめたりすることや、実際に「お試し」することができる場は必要であるし、地域内には小学校と関わりがなくなって久しい人や、校舎に入ったことがない人も存在する。跡地利用の舞台となる校舎等を地域に開放する機会を創出することは必要だ。

これらの取り組みの中で、地元住民が「自分たちで廃校を利用したい」となるか「地元では無理なので誰か連れてきてほしい」となるか、また別の道を選ぶのかは分からない。回数を重ねることで、まったく新しい活用方法が生み出されたり、はたまた地元住民自身の気持ちにも変化が起こる可能性もある。

当然、そこには摩擦も生まれるであろう。気が重いこともあるだろうし、傷つくこともあるであろう。しかし、小学校の統廃合という地域の歴史的にも大きな局面を迎え、新たな一歩が必要な今こそ、原始的な方法で手さぐりをするしかないと考える。効率は悪いし時間もかかるが焦ってはいけない。

誰よりも中津井の人々が中津井のことを知っているはずなのだ。

7. おわりに

本レポートを執筆するに当たり、中津井小学校長に許可を得て小学校内を見学することができた。卒業して20年以上経過しているが、各教室をのぞくとそこで自分や級友たちに起こった事件をありありと思い出すことができた。「思い出つまった校舎」という言葉はあながち嘘ではない。

中津井小学校校舎は昭和56年に建造された三階建てであり、クリーム色の壁面と赤い瓦屋根が中津井の風景ともよく馴染んでいる。一階の昇降口正面の突き当りはガラス張りになっており外からの光を存分に廊下に注ぎ込める明るい校舎でもある。アンケートで「もったいない」との回答も多数あったことにもうなずける。この校舎内で廃校跡地利活用のワークショップが出来たら良いのだが、現時点では教育施設であり、空き教室も無いため地元への開放には色々と障壁が多い。しかし、「廃校の利活用」に思いを巡らす時にはその校舎に入ってみるのが一番である。その時が来たら多くの人が校舎内に入る機会を創出すべきだ。

また、中津井の地域自主組織「中津井せんだんの会」が島根県浜田市へ廃校利活用の先進地視察へ行くと聞き、会長に無理をお願いし同行させていただいた。多くは記述しないが、その時の感想を少し述べたい。大きな校舎を何か一つの目的に使用するというには、無理があり、シェアオフィスのような用途こそが校舎には適していると感じた。そして何よりも、率先して視察へ赴く地元の先輩方の姿を目の当たりにし、とても頼もしく感じた。「廃校プロジェクト」を成功させるためには、その地域の特色をよく知る地元の人々の力が必要不可欠である。私も先輩方に負けぬよう、地元の人間として、また自治体職員としてこの校舎利活用に積極的に関わり、多くの地元の人が校舎跡地へ入り、そこで校舎の利活用に思いを馳せることができる機会を創出したい。

そして、いつか死ぬるときが来たら胸を張ってこの中津井の地に骨を埋めることができるよう生きていく。

【参考文献】

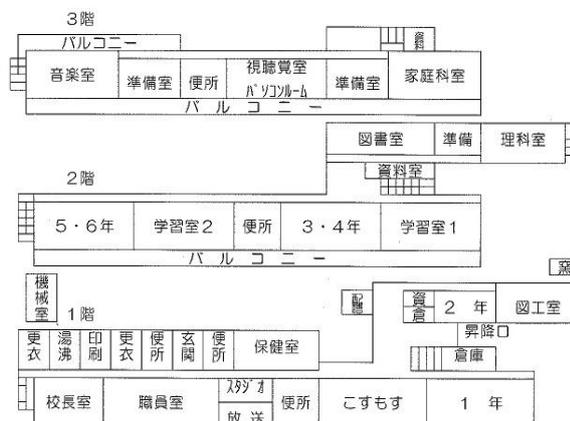
- ・島根県ホームページ <http://www.pref.shimane.lg.jp/>
- ・「季刊地域」編集部『シリーズ田園回帰 総力取材 人口減少に立ち向かう市町村』農山漁村文化協会(2015)
- ・北房町史編集委員会『北房町史 通史編 上』北房町(1992)
- ・真庭市学校整備推進委員会『真庭市小・中学校の適正配置について[答申]』(2010)
- ・真庭市学校整備推進委員会『真庭市小・中学校の適正配置について[資料編]』(2010)
- ・真庭市教育委員会『真庭市小・中学校適正配置実施計画』(2011)
- ・真庭市ホームページ <http://www.city.maniwa.lg.jp/>
- ・真庭市・真庭市教育委員会『北房における新しい子育て教育環境づくり基本構想』(2016)
- ・真庭市立中津井小学校『平成27年度学校要覧』真庭市(2015)

別添資料

図：校舎平面図

出典：真庭市立中津井小学校

『平成27年度学校要覧』真庭市(2015)



【参考資料】中津井アンケート集計結果】

性別

| | | |
|----|----|-------|
| 男性 | 30 | 46.2% |
| 女性 | 34 | 52.3% |
| 不明 | 1 | 1.5% |
| 合計 | 65 | |

1. あなたのお住まいの地域を教えてください。

| | | |
|-------|----|-------|
| 横山 | 5 | 7.7% |
| 蓬原 | 2 | 3.1% |
| 藤田 | 5 | 26.3% |
| 清常 | 6 | 9.2% |
| 平田 | 6 | 9.2% |
| 定 | 4 | 6.2% |
| 才田 | 4 | 6.2% |
| 上町 | 7 | 10.8% |
| 下町 | 3 | 4.6% |
| 中津井団地 | 2 | 3.1% |
| 土井 | 4 | 6.2% |
| 下村 | 2 | 3.1% |
| 蟹川 | 7 | 36.8% |
| 横内 | 3 | 4.6% |
| 樽見 | 5 | 7.7% |
| 合計 | 65 | |

2. あなたの年齢を教えてください。

| | | |
|----------|----|-------|
| イ・10代 | 4 | 6.2% |
| ロ・20代 | 6 | 9.2% |
| ハ・30代 | 5 | 7.7% |
| ニ・40代 | 12 | 18.5% |
| ホ・50代 | 7 | 10.8% |
| ヘ・60代 | 13 | 20.0% |
| ト・70代 | 10 | 15.4% |
| チ・80代 | 8 | 12.3% |
| リ・90代 | 0 | 0.0% |
| ヌ・100歳以上 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 65 | |

中津井に住んでいる年数

| | | |
|------------|----|-------|
| 10年未満 | 5 | 7.7% |
| 10年以上20年未満 | 4 | 6.2% |
| 20年以上30年未満 | 6 | 9.2% |
| 30年以上40年未満 | 2 | 3.1% |
| 40年以上50年未満 | 6 | 9.2% |
| 50年以上 | 23 | 35.4% |
| 回答なし | 19 | 29.2% |
| 合計 | 65 | |

3. 平日の日中はどこに居ますか。

| | | |
|---------|----|-------|
| イ・中津井地内 | 37 | 56.9% |
| ロ・真庭市内 | 18 | 27.7% |
| ハ・岡山県内 | 7 | 10.8% |
| ニ・岡山県外 | 1 | 1.5% |
| 回答なし | 2 | 3.1% |
| 合計 | 65 | |

また、平日の日中何をされていますか。

| | | |
|----------|----|-------|
| イ・自営業・農業 | 28 | 43.1% |
| ロ・サラリーマン | 13 | 20.0% |
| ハ・学生 | 4 | 6.2% |
| ニ・その他() | 15 | 23.1% |
| 回答なし | 5 | 7.7% |
| 合計 | 65 | |

その他(自由記述)

| | |
|----------|---|
| パート | 1 |
| 医療事務 | 1 |
| 介護 | 1 |
| 家事, 家のこと | 2 |

4. 「中津井のシンボル」といえば何でしょう。

| | | |
|-----------|----|-------|
| イ・ 大谷1号 | 15 | 16.7% |
| ロ・ 中津井小 | 12 | 13.3% |
| ハ・ B&G海 | 11 | 12.2% |
| ニ・ 高岡神社 | 10 | 11.1% |
| ホ・ 金毘羅神 | 5 | 5.6% |
| ヘ・ その他() | 25 | 27.8% |
| 回答なし | 12 | 13.3% |
| 合計 | 90 | |

その他(自由記述)

| | |
|------------|---|
| 旧校舎 | 1 |
| 中津井郵便局長 | 1 |
| ゴルフ場 | 2 |
| ピオーネ | 2 |
| 夕バコ | 1 |
| 中津井陣屋 | 4 |
| せんだんの木 | 4 |
| 雛の文化まつり | 3 |
| やまびこ会 | 3 |
| 中津井池 | 1 |
| 塩川の泉 | 1 |
| 才田稲荷 | 1 |
| 我が家(色んな意味) | 1 |
| 不便な所 | 1 |
| 特になし | 3 |

5. 平成30年3月で中津井小学校が閉校になる計画をどう思いますか。

| | | |
|-------------|-----|-------|
| イ・ 良いことだ | 7 | 6.8% |
| ロ・ 仕方がないことだ | 45 | 43.7% |
| ハ・ 断固反対である | 3 | 2.9% |
| ニ・ もったいない | 10 | 9.7% |
| ホ・ かなしい | 7 | 6.8% |
| ヘ・ 寂しい | 22 | 21.4% |
| ト・ 何とも思わない | 0 | 0.0% |
| チ・ その他() | 7 | 6.8% |
| 回答なし | 2 | 1.9% |
| 合計 | 103 | |

その他(自由記述)

| |
|--------------------------|
| 新しい校舎も不要になるのでは維持できないでしょう |
| 人口の割には校舎が多い(北房地内に) |
| 反対ではあるが子どものために児童が多い方がよい |
| 子どもが近くの学校へ行けない |
| 子どもにとっては良いのかも |
| 子どもを中津井小学校で卒業させたかった |
| 子どもが少ないのも子どもが可哀そう |
| これだけ減ったら仕方ない |
| 関心がない |

6. 閉校後の校舎の管理・活用についてあなたの思いに近いものに一つ回答してください。

| | | |
|----------------------|----|-------|
| イ・ 是非地元住民で管理・活用すべき | 4 | 6.2% |
| ロ・ できれば地元住民でした方がよい | 11 | 16.9% |
| ハ・ 地元住民でしない方がよい | 8 | 12.3% |
| ニ・ 地元住民が管理・活用すべきではない | 5 | 7.7% |
| ホ・ その他() | 29 | 44.6% |
| 回答なし | 8 | 12.3% |
| 合計 | 65 | |

その他(自由記述)

| |
|---|
| 管理については市ですべき。管理まで住民にまかすことはすべきでない。負担が大きすぎる。 |
| 企業を誘致すべき。 |
| 市の管理で地元住民が使用する方がよい。 |
| 企業の誘致。 |
| 行政にまかせる。 |
| 幼稚園を地域の拠点にした方がよい。小学校は規模的に管理すべきでない。 |
| 可能であれば地元住民で管理すべきだが無理をする必要はない。 |
| 良い方法があれば。 |
| 名案がないのなら性急に事を起こさない。 |
| 旧尋常小学校のような活用は見込めず、管理や補修をしながらそのまま維持していくのは難しいのでは。お金をかけて改修するならばグループホームなどならニーズありそう。活用したいけれど大きすぎて良い方法が思いつきません。 |
| 地元でできたらいいけど、お金が…。 |
| 誰の持ち物だろうが使う時は使う。草取りはおばあさん達ができる。労働力はあるがお金の問題は…。 |
| 小学校は地域のもんと思って付き合ってきた。 |
| 自主組織せんだんの会があるから、せにやいけんと思うが、自治会の会長の自覚も必要。 |
| 行政でもりしてほしい。 |
| 耐震があれば使えばよい、もったいない。 |
| むずかしい。(2) |
| わからない。(2) |
| 花岡荘とか入れない人のための施設。 |
| 使うにしても間切りの問題がある。 |
| 「是非地元住民で管理・活用すべき」と思うが私が率先してはできない。 |
| わからないので行政にまかす。 |
| まだ新しいので利用してほしい。 |
| めぐのはもったいない。 |
| 誰かが使わないと駄目になる。 |
| 誰かに貸す。 |

7. 質問6の理由を教えてください。(自由記述)※理由別

イ・是非地元住民で管理・活用すべき

| |
|-------------------------------------|
| 思い出のある小学校を地元住民で活用してほしいので。 |
| ある建物なので。壊してしまうと子ども達が悲しむ。活用できれば一番良い。 |
| 地元の小学校だから。母校だから。 |
| 地元の校舎だから。 |

ロ・できれば地元住民でした方がよい

| |
|--|
| なんとなく。 |
| せっかくあるものの活用方法を地元で。コミュニティハウスのようにできたら。 |
| 中津井にある校舎なので地元で管理できることが望ましい。(管理費など資金面は無理があると思う) |

ハ・地元住民でしない方がよい

| |
|---------------------------------------|
| 大きい建物なので大変。 |
| 自分のことで精いっぱい。 |
| 部外者(企業)に使用してもらい、できれば一部を住人に使用。アパートにする。 |
| 物が大きすぎるので無理と思います。 |
| 気持ちとしては住民で使いたいけど、もりできない。 |
| 建物が大きい。 |
| 管理できない、もともと学校用施設で使い勝手悪い、住民で使う必要はない。 |
| 建物が大きく維持管理が住民では大変。 |

ニ・地元住民が管理・活用すべきではない

| |
|---|
| 安定企業に経営して頂きたいと思う。 |
| できれば住民でしてもよいが、この先何十年も考えると、高齢者が増えていく現状で出来ない。 |
| 校舎全部使うのは無理。 |

ホ・その他()

| |
|---|
| 若い人々の働く場所を増やすため。(企業を誘致すべき) |
| 若い人が少ない理由の1つに働く場所がないので。(企業の誘致) |
| 採算が合わないものはしない方がよい(可能であれば地元住民で管理すべきだが無理をする必要はない) |
| 小学校を地域で管理するのは金銭的にも人的にも無理がある。(幼稚園を地域の拠点にした方がよい、小学校は規模的に管理すべきでない) |
| 管理が大変、若い人は日中いないし。(行政でもりしてほしい) |
| 地元も高齢化です、管理するのは難しい。(誰かに貸す) |

8. 閉校後の校舎・跡地が生まれ変わるとしたらどんな利用方法が良いと思いますか。

| |
|---|
| 子ども達への躰や人間として生きる為の基本事項を学べる教室として生かしてほしい。(核家族が増えている)コミュニティ。(地域のみんが集まれるところ)お年寄りから子どもまで集まる事ができる場所。高齢者の方が多いのを生かし、高齢者の方が利用でき、若い人と交流できるような所。年齢関係なく集まるような。カフェ、アトリエなど皆が集まれる場所になればいいなあ。 |
| 介護施設の誘致。更地にしてお年寄りが暮らせる施設を作って欲しいです。老人ホームがあっても老人が老人をみるようになる。福祉。年寄りを入れるのが良いと思う。介護・福祉系のもの(内装を全部変えて)。福祉・介護施設。デイサービス。高齢者の方のものになるように。 |
| 花岡荘とか入れない人のための施設にすれば雇用も生まれる。花岡荘とか入れない人が使えるように。介護施設、スポーツジム等。 |
| 工場が来れば雇用が生まれる。企業。IT企業(部分的に貸して)。工場。会社でもできれば。民宿。 |
| 工芸人が入ってたりするところもあるけど難しい…。 |
| 利用しないと宝の持ち腐れ。まだまだ使えるハズ、更地にただじゃいけない。空家のままだともったいない。何か良いことに使いたいよね。 |
| インターネットで募集する。インターネットで公募かけて、いい人がいたら。 |
| 更地にして売る、もしかしたら企業が買うかもしれない。 |
| 市が管理するのも難しい、住民が管理するのも難しい、壊すのが平等。 |
| コミュニティも老朽化してるのに…。 |
| 税金で維持管理するのはいかがなものか。(壊すよりは安いのか) |
| 市民住宅!! 入りたい人がいるのになかなか入れないから何のための市民住宅なのか意味がわからない。 |
| 「中津井」を知らない人「中津井」をわかってもらえるようなもの。 |
| テレビでよく見るが、地元でとれた野菜を料理して出している。 |
| 確かに行政だけでやるのは無理、こちらも協力はする。 |
| 大学に使用してもらおう。 |
| できれば雇用の場になれば良いが、現実には厳しいだろうと思う。 |
| 公民館機能を備えた防災の拠点施設。 |
| 売店、ガソリンスタンドなどの商業施設。 |
| まだ使えるはず、潰すとお金かかる、54~55歳の人たちの良い判断をしてほしい。 |
| 放置し数年かけて多くのアイデアが出るのを待つ |
| これから必要になるのは、やはり高齢者施設でしょうか……。理想は農地に戻して地域組合などにより農業生産で収入を上げ、地域に還元、などと考えましたが、実現させる勇気と意欲が私にはありません…。 |
| 真庭にお金落ちるような |
| プールはあってほしいけどね。 |
| 健康づくりのため、地域のために使ってほしい。 |
| 人が寄ってくるようなもの、仕事を生み出すもの。 |
| 倒すのにもお金かかる。まず耐震。 |
| 買い物できる場所。お店。 |
| まちの活性化(雛の文化祭の倉庫にも活用できる)、まちおこし。 |
| 阿口のキムチのように何かできれば。 |
| 蓬原の牛乳の加工場に。 |
| 育児、介護で離職者ゼロ。 |
| もともと子ども用の建物なので子ども用に使えるのでは。 |
| 車のない人達も集まれるサロンのなもの。 |
| 歳を取って一人になっても集まったりお世話になれる施設。 |
| 小学校の運動会が無くなっても、地区の運動会ができれば。 |
| 遊具、植物を残す。 |
| 自由に入りができる(校舎以外)。 |
| 校舎を残す。(小学校で何かやりたいです) |
| 半分は公民館、半分は防災。 |
| 用途ごとに部屋を分ける。 |
| 新しい地区(分譲地のような)、昔ながらのコミュニティに入るのは勇気がいる。 |
| 体育館はバレーなど、子どもや大人でも地元の人が使用できる施設として残してもいいかと。 |
| 図書館など、子どもも高齢者も利用できる文化センターみたいな施設。 |
| 田舎だけど国道沿いで子どもが自由に遊べる所がない。子どもが安心して遊べる場所。 |
| 技術を持っている人が人に教えることができるようなことができれば。 |
| 各教室、体育館などを格安で貸し出す。 |
| ネットで使用目的を公募し、住民の代表数名で検討(決定)する。 |
| もし大きなプロジェクトになりそうなら住民全員で投票し決める。 |
| 中津井地区の商店を集めて中津井モールをつくる。運動場をみんなの集まる公園にする。プールも夏は利用する。 |
| 色んな教室(俳句・お絵描き・書道)。コミュニケーションとれたり。若い人の考えで良いものができれば。 |
| べつにない。わかりません。思い浮かばない。思いつかない。特になし。 |

【参考資料】 ヒアリング結果をまとめたもの

1. 平成30年3月で中津井小学校が閉校になる計画をどう思いますか。

- ・教育に集団は必要。仕方がない。
- ・立地条件の良い小学校が空き家になる。役所は早めに対応してほしい。
- ・至道高校跡地については良いとは思っていない。(当初、教育委員会から説明なかった。)
- ・至道高校跡地利用のことも含め良いことだと思う。
- ・上水田小学校も耐震工事したのに…。
- ・新しい小学校は畑や果樹園を作り、農業に特化したりすると良い。
- ・びほく農協北房支所も無くなる計画がある。
- ・仕方がないが、「逆転の発想」が欲しかった。
- ・「一部」で決まった感もある。
- ・寂しいが仕方がない。
- ・地元としてはあった方が良かったが、子どもとしては統廃合した方がトータルで良いこと。
- ・さみしい。
- ・人数がすくない。しょうがない。
- ・決まったことは覆らない。
- ・統合は良いが新しいハコモノを作ることは賛成できない。(0円で始める工夫を)
- ・反対したところで人がいない。
- ・行政的に効率が悪い・子どもも大勢の方が良いのでは。
- ・寂しい。
- ・小学校は地域の中心地にある。そこが廃墟になると厳しい。
- ・学校が無くなり過疎化が進むことが懸念される。時代が変わらない限り人口減少に拍車がかかる。

2. 現在の校舎に対する思い出、または旧校舎が無くなった時の思い出があればお聞かせください。

- ・当時、中津井にいた期間が少ない。(他所にいた)
- ・入学前に新校舎になった。
- ・あまり大きな声で言えるようなことはしていない。
- ・旧校舎(木造)の頃はどこからでも忍び込めた。忍び込んで遊んで叱られ、善悪を学んだ。
- ・当時の教師はものすごく叱ってくれた。
- ・親の知らない所で、子どもが自分たちだけで学べた。
- ・建物の文化と人間の文化は変わってきている。(フスマと個室:フスマは察する力)
- ・6年生のとき新しくなった。
- ・旧校舎でせんだんの木(元祖)があった。(プールのところ)。川で泳いだりしていた、授業だったと思う。1クラス平均20~30人はいたが、自分たちは丙午で少ない。
- ・妹が5~6年の時立替。
- ・子ども達は3人新校舎で卒業したが、子どもも大きくなって今は第3者的な立場。
- ・息子が5年生に時に建った。夏休みに窓拭きや草取りをした。それがもう不要になるのはさみしい。
- ・まだ木造だった(旧校舎)。半年だけ新校舎(新校舎で卒業)。
- ・池で鯉釣ったり悪いことしていた。
- ・その頃は、土井と蟹川だけで野球チームできた。アイロンプリントのTシャツがユニフォームで田んぼの株の上で練習してた。
- ・運動会
- ・放送委員で17時まで残って一人で放送していた。「下校時間になりました、お友達を誘って帰りましょう。」宇宙戦艦ヤマトの音楽を流していた。
- ・二年生の頃に体育館ができた。
- ・木造校舎に通っていた。
- ・立替の時に職場の上司がPTA会長だった。
- ・「せんだんの木」は立替時、プールを作るために、利便性、子どものために思って切った。

3. 閉校後の校舎の維持管理や活用について、中津井地域の住民で何かできることがあると思いますか。

- ・地元へ押し付けられても物が大きすぎて維持管理できない。(他にも中津井陣屋など市から指定管理物件もある)
- ・中津井全体で法人になれば…とも思うが大変。
- ・もっと女性も前に出てほしい。
- ・始めることよりも続けることが難しい。(15年続いた雛の文化祭も存続できるかどうか)
- ・住民には無理。
- ・区画別に人に貸したら良い。(何かの卵のような人物に。)
- ・維持費の問題は大きい。
- ・財源が確保できるまでは市で運営の補助をしてほしい。
- ・会費制が確実だが、会員も減っていく(人口減少)だろう。
- ・フィットネスクラブ、グランドゴルフ、みんなのコミュニケーションの場。
- ・更地にした方が使い勝手が良い。(どうせ古くなったらいつか壊す。)
- ・幼稚園は防災の拠点に。
- ・更地にして維持管理は行政で。体育館は有事の際に必要。
- ・建物が大きく、維持管理の話になると押し付け合いになる。
- ・跡地利用なら幼稚園もある。(公会堂などに)
- ・改良して施設に。公会堂など。
- ・体育館は必要。
- ・使用料を維持管理費に充て行政が運営。
- ・地域の人と子どもで中津井なりの考え方で。(余所にできない、中津井にしか出来ない。)
- ・合併して10年、北房が一つにならんといいん。
- ・議員は北房に一人で充分。議員はどこにでもあるものを自分のところに欲しがる。
- ・自分の田に水を引くようなことが始まらないように議員のいない所で話が進んだ方が良い。
- ・避難所としては残る。
- ・校舎が幽霊屋敷みたいになるなら無い方が良い。
- ・何か会社とか入ってくれば。
- ・廃墟になるなら壊した方がいい。
- ・建物があるなら、貸事務所や老人ホームなど人が集まるものもいい。

4. 閉校後の学校について、または校舎利活用について思うことがあればお聞かせください。

- ・島根ではベンチャー企業(特にIT企業)が廃校を活用している。興味がある。(せんだんの会で視察に行きたい。)
- ・良い視察先があれば教えてほしい。
- ・「人生の楽園」というテレビに良い例が出ていた。
- ・敢えて子どもに過酷な体験をさせる場所に。(魚をさばるとか)
- ・最終的に壊す時にはやはりお金が必要になる。
- ・他市では「宿泊」にしか使えなくて失敗している。(色んなことに使えた方が良い)
- ・他所から人が呼べるようなものなら良い。
- ・テナントにして入る人がいるのか。
- ・作ったとして何年もつのか。
- ・最終的に壊すときはグランドゴルフできる面積が広がる。
- ・残すのはおおごと。お金もマンパワーも人材も必要。衛生面、安全面からも残す意味は感じない。住民の溝につながる。
- ・公園など集える場所。(もっと集いやすく)
- ・集うだけならあの建物はいらぬ。お荷物になる。(憩いの家も菅野邸もある)
- ・映画館なんかあれば子ども集まる。
- ・行政で最後責任持ってくれたら動く人がいるかも。
- ・お年寄りが子どもに無農薬の野菜や食を伝える場。
- ・障がい者の学童保育。
- ・どこにも無いものが中津井にあれば。
- ・「アホな」「バカな」でも出来たら面白いね。そんな話を展開できる人が。
- ・都会から誰か呼び込む。
- ・都会から見て魅力的であれば。
- ・都会には無いものがあれば。
- ・利便性以外に田舎の良いところを。
- ・住宅用地ということもあり得るかも。
- ・一番の理想は人口が増えたときに再び小学校として利用されること。
- ・若い人が増えることによって将来の人口は変わっていく。若い人が残れる環境、若い人に選ばれる環境になれば。
- ・統廃合は平成30年4月に限定せず、場所の選定も含めてもう少し先延ばしにして検討しても良いと思う。